上野城（白鳳城, 伊賀上野城）（国史跡, 百名城）（伊賀市上野丸之内）（上野公園）

伊賀上野城は、上野盆地のほぼ中央にある上野台地の北部にある標高 184 メートルほどの丘に建てられた平山城である。北には服部川と柘植川、南には久米川、西側には木津川の本流が流れ、城と城下町を取り巻く要害の地にある。

織田信雄（北畠信雄）の家臣である滝川雄利は平楽寺の跡に砦を築いた。その後天正 13 年（1585 年） に筒井定次によって改修を受け、慶長 16 年（1611 年）に徳川家康の命を負って藤堂高虎が拡張したが、大坂の役によって、当時高虎が従属する徳川家康に対立していた豊臣氏が滅んだため築城が中止され、本丸・二ノ丸などの主要部分は城代屋敷を除いて未完成のまま江戸時代を過ごした。

昭和 42 年（1967 年）旧城域一帯が国の史跡に指定されている。城を含めた近隣一帯は上野公園として整備されており、松尾芭蕉を祀る俳聖殿や芭蕉翁記念館があるほか、伊賀流忍者博物館があり、伊賀上野の観光地として利用され、各種イベントなどが行われている。長年日本一といわれてきた藤堂高虎の高さ約 30 メートルの石垣や三重県立上野高等学校敷地内に武庫蔵が現存し、米倉は博物館の一部として上野公園敷地内に移築現存する。現在、天守台にある 3 層 3 階の天守は昭和初期築の模擬天守で、正式には伊賀文化産業城という。

平安時代城のある丘は平清盛の発願によって建立された平楽寺という大寺院があった。

室町時代伊賀上野城西の丸と後世に呼ばれることとなる丘陵には伊賀国守護である仁木氏の館（伊賀の守護所）があった。

戦国時代天正 7 年（1579 年）9 月、伊勢国の織田信雄が 8 千兵を率いて伊賀平定に乗り出したが、伊賀衆の前に敗退し、天正 9 年（1581 年）9 月織田信長の援軍をうけ 4 万兵で伊賀国を平定。織田信雄の家臣である滝川雄利を伊賀国守護とした。滝川雄利は大寺院、丸山城、滝川氏城を改修し伊賀国を支配した。本能寺の変後豊臣政権となると、天正 12 年(1584 年)10 月脇坂安治が伊賀国守護となったが、天正 13 年(1585 年）5 月に摂津国に移封された。

筒井氏時代同年 8 月 郡山城から移ってきたのが羽柴の姓を賜った筒井定次であった。天正伊賀の乱で焼け落ちた平楽寺、仁木古館跡に築城することにした。

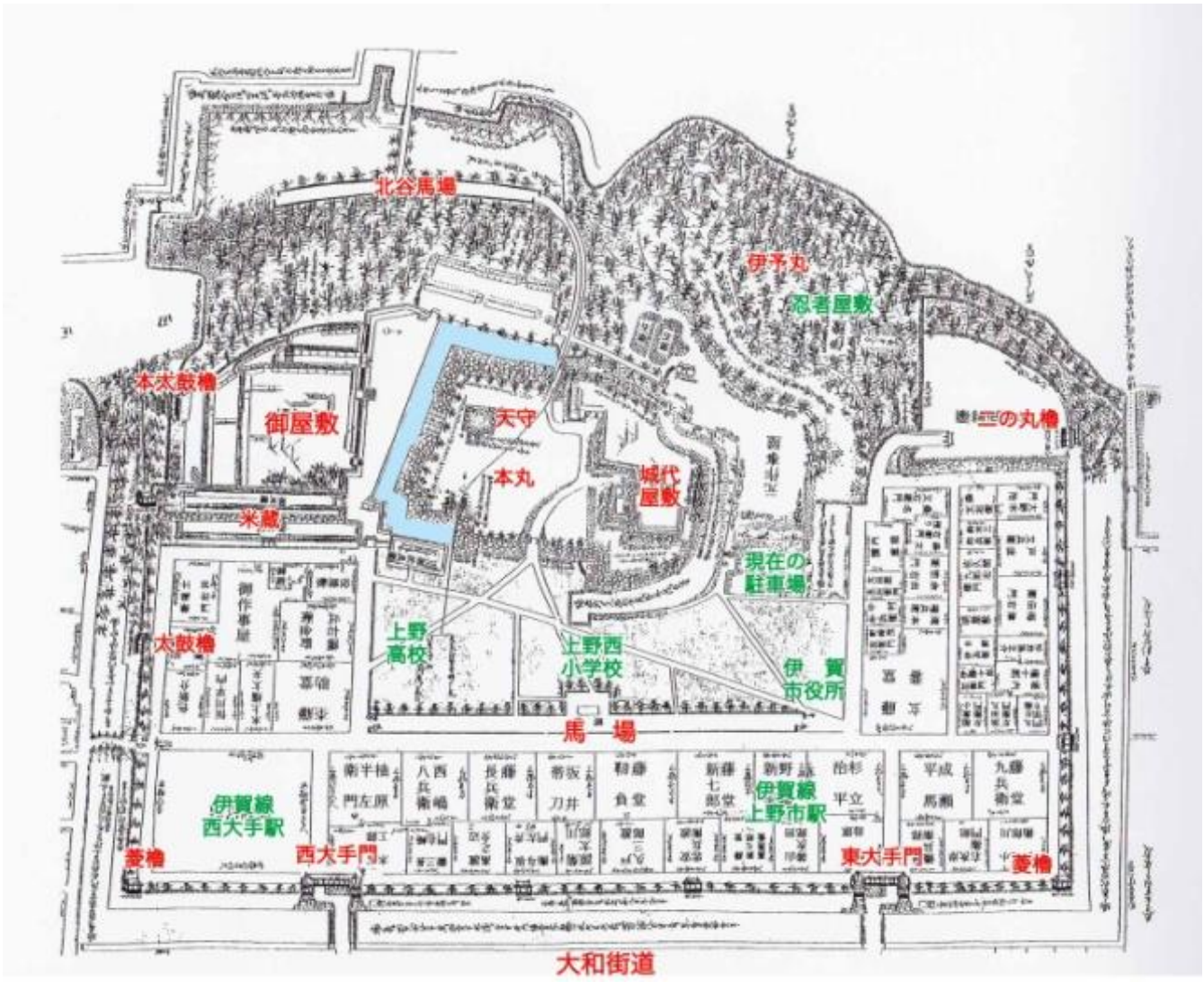
城は高丘の頂上を本丸とし、三層の天守を建て、本丸の西に二ノ丸、北の山下を三の丸を配し、大手を三の丸の北谷口とした。城代屋敷の北東隅に筒井時代の天守があったと考えられている。

1600 年（慶長 5 年）、関ヶ原の戦いが起こると筒井定次は東軍の徳川家康方につき、会津征伐に参戦し、上野城は筒井玄蕃が留守居役としたが、上野城を西軍の摂津国高槻城主新庄直頼、直定父子に上野城が攻撃されたが、筒井玄蕃は戦わず城を明け渡し高野山に逃亡した。筒井定次は徳川家康の許しを得て直ちに軍を引き返し、城を再奪取し事なきを得た。

関ヶ原の戦いの戦後、新庄直頼は改易され筒井定次は本領安堵、伊賀上野藩を立藩した。しかし、徳川家康は大坂城を包囲する必要に迫られ、彦根城同様重要な地点である伊賀上野城を強固にすべく、徳川家康は筒井定次をかねてから不行状で島清興などの重臣に多く出奔され失策の多いのを理由に、慶長 13 年（1608 年）6 月に領地没収、磐城平城鳥居忠政のもとに預けた（筒井騒動）。一説には、筒井定次がキリシタン大名で棄教を聞き入れなかったためとも言われている。

藤堂氏時代同年 8 月伊予国宇和島城から築城の名手とされる藤堂高虎が、伊賀国に入国した。大坂城に対抗する以外にも、大和国、紀伊国を抑えるためにも藤堂高虎の力が必要となったと思われている。慶長 16 年（1611 年）正月より、伊賀上野城を大幅な改修に着手、大坂方に対抗するために特に西方面の防御に力をそそいだ。この「摂坂の城」とは豊臣時代の大坂城のことを指しており、高石垣の規模の大きさを物語っている。南側を大手とし、堀を深く、南に二ノ丸を構築した。天守の位置を西側に移動し、今治城天守を移築しようとしたが、天下普請となった丹波亀山城に献上したため新規に 5 層天守を建設した。

筒井定次時代は、伊賀上野城は大坂城を守る出城としての機能を持った城であったのに対して、藤堂高虎時代は大坂城を攻めるための城というまったく正反対の立場をとった城とされている。
東西十三間、南北十一間、高さ五間の天守台を築いた。天守閣の建設は五人の大工棟梁の分担工事とし、互いを競わすなどされていたが、完成をひかえた慶長17年（1612年）9月2日、大嵐のため三層目が西南に吹き倒れ、その上に五層目が落ち天守は倒壊した。大工や人夫合せて約180名が倒死、また多数の怪我人をだした。
1614年（慶長19年）、1615年（元和元年）大坂の役で徳川家康の勝利となり、豊臣氏の滅亡で堅固な城が必要なくなり天守は再建されなかった。本丸に櫓は建てられなかったが、外堀の土塁上には、二層櫓が二棟、単層櫓が八棟、計十棟の櫓が建てられ、また長さ二十一間、両袖に七間の多聞櫓をつけた東大手門、西大手門も建てられた。藤堂高虎は大坂の役が終わった後、交通の便利がいい津城を本城とし、伊賀上野城を支城とした。
一国一城令で伊賀上野城は伊賀国の城として存続が認められると、弟の藤堂高清を城代とし、藤堂高清の死後は藤堂元則が城代となり、1825年（文政8年）藤堂高猷が最後の城主となるまで世襲した。
藤堂高虎が大規模に改修した時は、大坂城の備えとして西側の防備を固めた。これは、徳川家康が不利となった場合、この城で籠城する時に備えて、相当数の兵員を収容できるよう、細部の完備や美観を整えるより実戦本意に配慮した。藤堂高虎は伊賀忍者に命じ、58カ国、148城を密かに忍ばせ要害図を盗写させ、伊賀上野城を改修の参考にしたという伝承が残っている。
筒井定次時代の城を取り込み、大きさも約3倍となり7千坪に拡張した。筒井定次時代の本丸の西を拡張し、旧本丸と合せて新本丸とした。本丸の南には広大な外郭をつくり二ノ丸と呼ばれていたが、次第に名称も変わり東の高台と通称するようになった。東側の外堀は218間、堀幅12間、南側は488間、堀幅15間、西側は254間、堀幅12間、北側が17間、北の山下の土塁と堀は筒井氏時代のものを活用している。丸の内は高い禄の家臣の屋敷地となっていた。
本丸の西、内堀を隔てた台地、現在の三重県立上野高等学校のグランド付近が、藩主の屋敷、御殿と呼ばれている。城下町は外堀の南に置かれ、本町筋、ニの町筋、三の町筋があり、三の町筋に家臣や住民の消費にそなえた商人町があった。三の町筋の南側に堀が作られる予定であったが、中止になり外馬場となった。これ以外に馬場の南一帯は外輪と呼ばれる侍町、忍町が置かれ、更にその南に鉄砲組足軽の長屋が置かれ、鉄砲町と呼ばれていた。忍町の南一端はかや町と呼ばれる農家があったが、次第に町が形成され東の枝町と呼ばれていた。
嘉永7年（1854年）6月に、伊賀上野地震があり伊賀上野城をはじめ城下町に大被害があり、城内の建物の多くが壊れ、石垣が所々で破損した。その後御殿、城代役所、武具蔵、米蔵をはじめ、東大手門、西大手門等、城として最小限のものが補修されたが、外郭の櫓は再建されず、倒壊をまぬがれた太鼓櫓と菱櫓が残るものとなった。
Wikipediaによる


北谷馬場
伊予丸
忍者屋敷
本太鼓櫓
御屋敷
天守
三の丸櫓
本丸
城代屋敷
米蔵
現在の駐車場
太鼓櫓
上野高校
上野西小学校
伊賀市役所
馬場
伊賀線西大手駅
伊賀線上野市駅
菱櫓
西大手門
東大手門
菱櫓
大和街道